

振興局調整費事業事後評価調書（平成23年度実施分）

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	仙北管内“食・農・観”まるわかり観光ガイドブック作成事業	県内随一の観光地である田沢湖・角館の観光客を、管内へ周遊させることを目的に、管内の地理、観光施設等が一見して分かるマップを作成し、周遊観光の促進を図る。	354,000	直営	B2サイズ・フルカラーのガイドブックを15,000部作成し、管内の「道の駅」、観光案内所、宿泊施設に配布した。	県	観光客	平成23年7月21日	情報量が豊富であることや、大判の管内地図を掲載していることから、分かりやすいと好評であり、特に観光案内所での評価が高かった。	好評であったため増刷も視野に入れているが、その場合、掲載する情報については、十分に精査のうえ最新かつ正確に記載するよう留意する必要がある。
						平成23年7月21日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
農林部	足達 信廣	農業振興普及課	産地・技術支援班	主幹 日野 誠志	0187-63-6110	仙北地域高冷地野菜等生産団地育成モデル事業	高冷地の立地条件を活かし、夏場の園芸産地育成の可能性を検討するため、関係機関が連携し「栽培実証ほ」を設置し、新規園芸産地の育成を支援する。	269,000	直営	栽培実証ほを設置し、ハクサイ、ダイコン、キャベツなどの品目の試験栽培を行ったほか、市場関係者との販売戦略の検討も行った。	J A、仙北市、県による協働	仙北市管内の園芸取り組み希望農家	平成23年7月21日	J A秋田おぼこより、地域の立地条件を活かした野菜産地の育成を図りたいとの意向を受け事業が実施されたが、タイトな日程でありながら、ほぼ期待どおりの活動が展開できた。	害虫の被害が想定よりかなり多く、対策の見直しが必要である。関係機関が、より一層の連携を図り、産地化に向けて支援を行う。
						平成23年7月21日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
福祉環境部	豊島 優人	環境指導課	環境・食品衛生班	副主幹 佐藤 徹也	0187-63-3694	県南地域食品安全啓発事業	生食用食肉による食中毒や放射性物質等の問題など、事業者、消費者ともに関心のある問題が発生しており、食品安全に関する情報を分かりやすく効果的に発信するための啓発事業を行う。	210,000	直営	ポスター、リーフレット、DVDなどの啓発資料を作成し、県南食品安全地域懇談会や、各地で行われる食品衛生講習会において活用しながら、食品安全に関する啓発を行った。	県	消費者、事業者など	平成23年8月10日	食中毒予防や、食品添加物などについて分かりやすく知らせる資料を作成し、住民にとって関心の高い情報を提供することができた。	事業者、消費者等が会して、共通の話題に触れることは大変有意義であり、今後とも折々の話題の取り上げ同様の事業を展開していきたい。
						平成23年8月10日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
農林部	足達 信廣	農業振興普及課	企画班	副主幹 福田 正文	0187-63-6111	農産物販売におけるリピーター確保	農業者が、農産物を継続的・安定的に生産・加工して所得向上を図るためにリピーター顧客の確保が重要であり、顧客を確保するためのモデル事業を実施する。	60,000	直営	美郷直売ネットワーク協議会と協働で、同会が生産・販売する農産物の「紹介チラシ」を作成し、直売所や首都圏での販促活動で顧客に配布し、顧客からの注文や問い合わせ状況を調査した。	美郷直売ネットワーク協議会、県による協働	農業従事者、消費者	平成23年9月26日	協議会との協働による実施は、今後のモデルケースとなりうるものであり、結果を今後の農産物販売促進につなげていきたい。	リピーターの増加に直結したかについて、結果が判然としない部分があり、調査に時間がかかった。結果から、課題や問題点を抽出し、新たな手法による対策の検討も必要である。
						平成23年9月26日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	企画振興班	主事 小川 典子	0187-63-5114	千屋小学校「ドリームトープ活動」支援事業	以前より、校内のビオトープを活用してイバラトミヨなどの生態や、地域の自然環境について学習を行っている千屋小学校の活動を支援するため、ビオトープに改良を加える。	520,000	委託	ビオトープの機能強化を図るため、ビオトープの面積の拡張と、観察者が水中を断面で見ることができるようアクリル板を設置する改良を加えた。	県	小学生	平成23年10月3日	アクリル板を設置したビオトープは、今まで以上に生徒の興味関心、観察しようとする意欲を持たせるものであり、児童の学習活動に貢献した。	美郷町では、小学校の統廃合なども行われることから、統合後の学校でも今まで以上にビオトープを活用した取り組みが展開されるよう支援について検討する。
						平成23年10月3日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	『秋田内陸線の旅』制作事業	東北新幹線延伸、秋田新幹線新型車両投入に伴い増加が予想される観光客の県内陸部への誘客を図るため、弘前・角館間のJ R奥羽線・秋田内陸線の運行ダイヤや2次アクセスなどの情報を掲載したパンフレットを作成する。	1,050,000	負担金	内陸線沿線の観光地、宿泊施設、食、J R線との接続を盛り込んだ情報誌を、沿線市町村と協働で作成した。6万2千部作成した冊子は、首都圏J R 3 5 5 駅に配置した。	内陸線沿線市、県による協働	首都圏在住者	平成24年1月11日	内陸線の乗車促進について、沿線市町村、県、J Rが連携することで、内容の充実したパンフレットの作成を行うことができ、首都圏の駅に配置により、効果的な露出機会を得ることができた。	内容の充実した情報誌を作成し、広く配布することで得られる効果は大きいものがあると感じるが、今後も同様の事業を実施していくのかについては、関係機関との役割分担等、今一度検討する必要がある。
						平成24年1月11日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	避難者交流会開催事業	県南地区への避難者世帯の孤独化防止と生活支援サポートのため、避難者同士が交流を始めるきっかけとするための交流会を開催する。	146,000	直営	大仙市、仙北市において、交流会を開催した。今後避難者支援活動を実施する予定のN P O 団体や市町と連携し、餅つきやお話コンサートなど、バラエティに富んだ内容となった。	N P O、市町、県による協働	県南地区への避難者	平成24年1月31日	避難者同士のつながりをもつ機会が欲しい、という避難者からの要望に応えるために実施した。見知らぬ土地で孤立しがちな避難者に、語らいの場を提供することができ有意義であった。	避難者が集うことのできる場づくりは継続しながら、今後も、時間とともに変化する避難者のニーズを把握し、必要な支援を実施していく。
						平成24年1月31日～平成24年3月31日							平成24年11月1日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	春の仙北観光誘客 プロモーション事業	東日本大震災及び原発事故による風評被害で、入込客の落ち込んだ観光地へ誘客を図るため、角館の桜をはじめ、花の名所や各種体験メニューについて首都圏各地でPRを行う。	1,261,000	直営	首都圏で開催される県主催、または共済イベントでに参加し、観光PRを行った。誘客を図るためのグッズとして、チラシを入れ込むオリジナルポリ袋を作成し、活用した。	県	首都圏在住者	平成24年1月30日	これまで、各種観光PRを行ってきたが、手薄であった桜の時期に向けた観光宣伝を行うことができたのは有意義だった。来場者も多く訪れ、PRを行うことができた。	首都圏における観光PRについては、平成25年度からは本庁が主体となるが、今後も、地域の観光情報を効果的にPRできるよう、本庁との調整を十分にを行う必要がある。
						平成24年1月30日 ～ 平成24年3月31日							平成24年11月1日		
総務企画部	栗林 直美	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	秋田で元気に！仙北へおいで！ “食・農・観”元 気回復支援事業	【震災版調整費事業】 仙北地域への誘客を図るため、仙台圏を対象としたフリーペーパーによる情報発信と、食・農・観をPRするイベントへの出展を行う。	1,455,000	直営	宮城県内各所で配布されるフリーペーパー「るるぶFREE夏号」への広告掲載をしたほか、仙台市内のアウトレットモールで開催された「ごっつお市場」へ出展し、宣伝を行った。	県	宮城県在住者	平成23年5月18日	震災後、数ヶ月を経て、行楽への需要が高まっていた仙台市民への観光宣伝を行うことができたのは、時宜にかなったものであり、現地の復興に前向きな声も多く聞くことができた。	今回得た経験をもとに、今後、仙台圏での観光宣伝、物産展開催にあたっては、効果的な掲載誌及び集客力のあるイベント開催場所を吟味する必要がある。
						平成23年5月18日 ～ 平成24年3月31日							平成24年11月1日		